

36 大血管の拡張・狭窄・閉塞を来した大動脈炎症候群の一例

A case of aortitis syndrome with dilatation, stenosis and obstruction of large arteries

鳥取大学医学部病態情報内科学 楠本智章, 宮本美香, 下山晶樹, 荻野和秀, 重政千秋

この度我々は全身の大血管に炎症が及び拡張・狭窄・閉塞を呈している大動脈炎症候群の一例を経験した。症例は21歳女性。主訴は全身倦怠感。現病歴としては平成14年に胸痛・意識消失発作が生じ精査するも異常なしとされた。平成16年の学校検診にて心雑音とレントゲン上胸部異常影を指摘され、精査目的に当科紹介となった。身体所見では両側下肢の血圧低下を認め、聴診にて拡張早期逆流性雑音や両側頸部・上腹部～臍下部・左右側腹部・左鼠頸部に血管雑音を聴取した。検査所見ではCRP=10.36 mg/dlと炎症反応が著名に高値であった。画像所見では頭部を除く全身の大血管において広範囲に渡る拡張・狭窄・閉塞部位を認めた。以上より大動脈炎症候群の診断にてプレドニゾン投与を行ったところ、炎症反応は著名に改善した。本症例のように若年女性の原因不明の発熱や炎症反応の持続には本疾患を鑑別診断として加える必要があると考えられた。